

桜田Ⅳ遺跡

所在地 福島県双葉郡広野町大字下浅見川字桜田
福島県埋蔵文化財包蔵地台帳 54180100

桜田Ⅳ遺跡は、東日本大震災による災害公営住宅整備のための試掘調査で新たに見つかった遺跡です。2013年(平成25年)に、工事で遺跡が壊されてしまう範囲を対象に発掘調査を行いました。

発掘調査では、古代の^{たてあなじゅうきょあと}竪穴住居跡や^{ほったてばしらたてものあと}掘立柱建物跡が多く見つかりました。これらの建物跡は、浅見川下流の^{かがんだんきゅう}河岸段丘という地形の上に集中しており、とくに、8世紀前葉から中葉ごろ（奈良時代前半）には、掘立柱建物が直線的に並んでいたことがわかりました。ほかに縄文時代の^{いぶつほうがんそう}遺物包含層、古代の大溝跡、中世の建物跡などが見つかりました。遺物は縄文時代の土器・石器、奈良・平安時代の土師器・^{はじき}須恵器、^{すえき}製鉄に関する^{はぐち}羽口・^{てっさい}鉄滓などが出土しました。

直線的に並んだ掘立柱建物は、古代の^{うまや}駅家に関する施設ではないかと言われ、全国的にも話題になりました。この重要な建物跡が集中する範囲については、工事の計画を変更して公園とし、地下にそのまま保存されています。

発掘調査の成果は、『桜田Ⅳ遺跡』（広野町文化財調査報告第6冊）として報告されています。



桜田Ⅳ遺跡の位置と周辺の遺跡

桜田Ⅳ遺跡の移り変わり



◎ 空から見た発掘調査の様子

今では、広野駅の東側は道路が整備され、建物が多く建てられています。発掘調査を行った場所は、災害公営住宅と公園になっています。



◎ 掘立柱建物の柱と大溝の跡

柱の穴を少しだけ掘り下げて、柱の位置や建て替えた順番を調べました。この場所は、柱の穴と大溝の一部分だけを調査したのちに埋め戻して保存し、公園になっています。

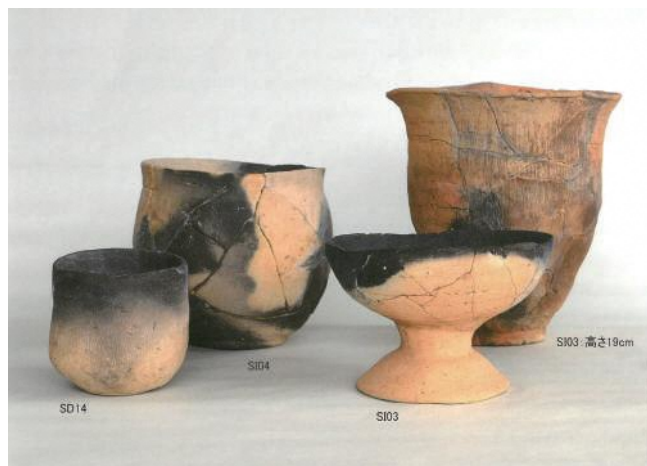


◎ 竪穴住居跡から土器が出土した様子

縄文時代から古墳時代は、低湿地があり、生活に適さない環境だったようです。Ⅱ期になると、ようやく集落が営まれるようになりました。竪穴住居や掘立柱建物(倉庫)があり、製鉄に関係する羽口や鉄滓が出土するため、周辺で製鉄関係の作業場があったのかもしれませんが。北側の低湿地は、水田に利用されていたようです。

Ⅲ期では、大溝の南側で規則的に並ぶ掘立柱建物群が出現し、Ⅳ期では建物の建て替えをしながら集落が継続されますが、Ⅴ期になると建物はなくなり、遺跡の役目に変化があったようです。

Ⅱ期からⅣ期は、飛鳥時代から平安時代の前半にあたり、古代の行政組織が整えられ、広野町周辺は陸奥国石城郡(磐城郡)に含まれていました。Ⅲ期の奈良時代の前半には、一時期、福島県浜通り地域を中心に石城国が作られ、すぐに陸奥国に戻るなど、社会的に大きな変化があった時期です。遺跡で掘立柱建物が急に増えるのも、社会的な変化の影響と考えられます。

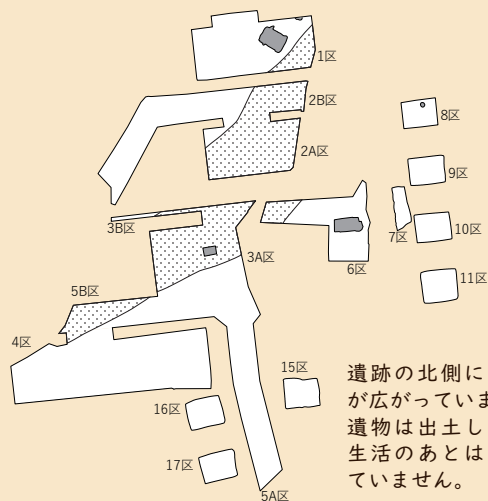


◎ 桜田Ⅳ遺跡で出土した土器（土師器）

古代の土器には、素焼きで赤みのある土師器と、窯で焼いた青みのある硬い須恵器があります。桜田Ⅳ遺跡では土師器が多く出土しています。

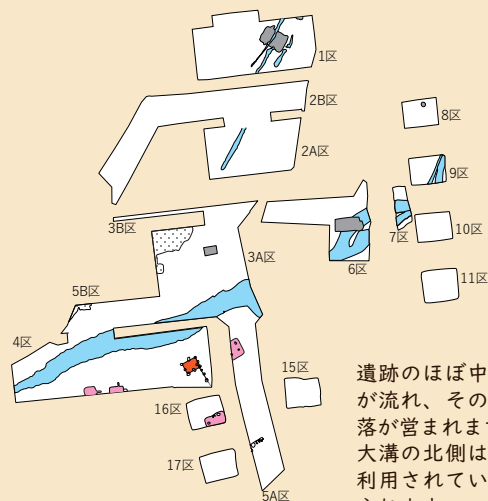
杯（碗）内側が黒いのは、東北地方の特徴です。

I 期（縄文時代～古墳時代）



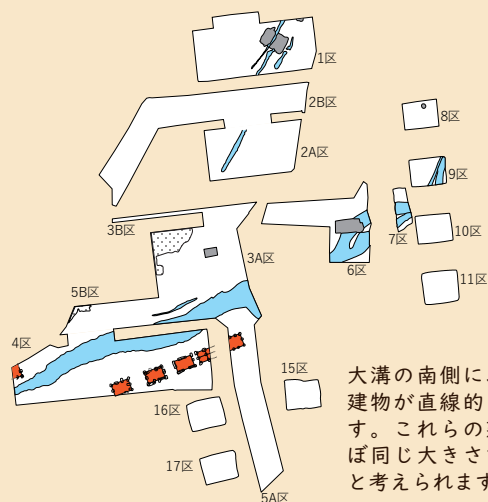
遺跡の北側には低湿地が広がっていました。遺物は出土しますが、生活のあとは見つかりません。

II 期（7世紀末葉～8世紀初頭）



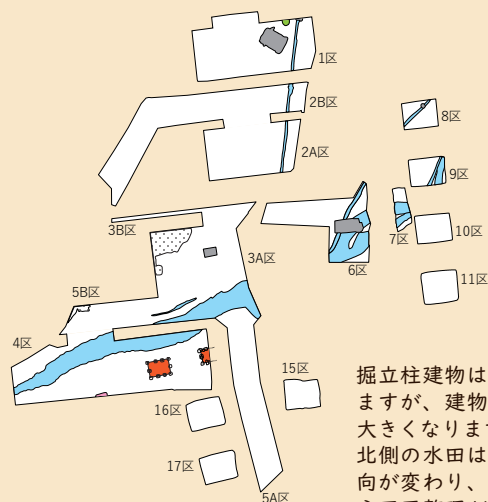
遺跡のほぼ中央に大溝が流れ、その南側に集落が営まれます。大溝の北側は、水田に利用されていたと考えられます。

III 期（8世紀前葉～中葉）



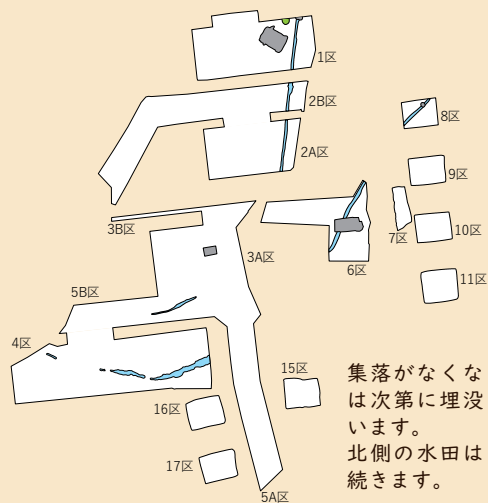
大溝の南側に、掘立柱建物が直線的に並びます。これらの建物はほぼ同じ大きさで、倉庫と考えられます。

IV 期（8世紀後葉～9世紀中葉）



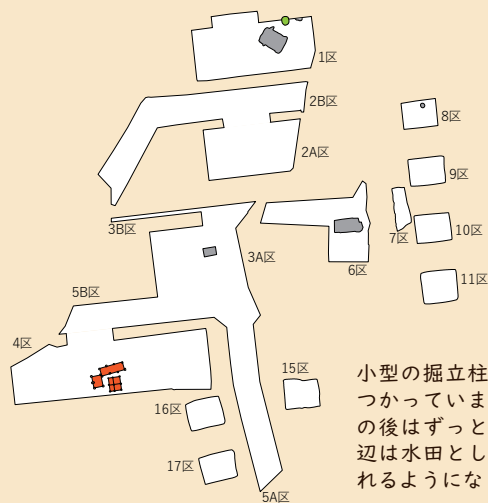
掘立柱建物は数が減りますが、建物の面積は大きくなります。北側の水田は、溝の方向が変わり、条里という区画整理があったと考えられます。

V 期（9世紀後葉～平安時代後期）



集落がなくなり、大溝は次第に埋没してしまいます。北側の水田はその後も続きます。

VI 期（中世）



小型の掘立柱建物が見つかりますが、その後はずっと、遺跡周辺は水田として利用されるようになります。

● 攪乱 ● 竪穴住居跡 ● 掘立柱建物跡 ● 溝跡

● 井戸跡 ● 遺物包含層（低湿地）

0 50m
(S=1/2,000)

古代の駅路と広野町

古代において、中央と地方を密接に結びつけるため、全国に7つの主要幹線道路(駅路)が整備され、太平洋側には、常陸国の国府(国の役所)まで東海道が通っていました。駅路には、使者が馬を乗り継ぐために、16kmごとに駅家という施設が設けられていました。

718年(養老2年)に、陸奥国南部の太平洋側の郡と常陸国の北側の地域を合わせて石城国が作られます。陸奥国の国府までは、現在の中通りを通る東山道が使われていましたが、石城国が作られたことで、東海道を延伸し、石城国を経由して陸奥国までを結ぶ海道を整備したと考えられ、719年には石城国内に10か所の駅家を設置したことがわかっています。

石城国は数年で再び陸奥国に戻ったため国府の場所は不明で、海道も811年(弘仁2年)に廃止されていますが、発掘調査により、各地で海道の痕跡が見つっています。海道は、現在の浜通りの海岸近くを通っており、広野町にも駅家があったと考えられています。

桜田Ⅳ遺跡は、浅見川の河口近くに位置しているため、陸上・海上ともに交通の重要な地点にあたります。発掘調査で見つかった規則的に並んだ建物は、8世紀前葉から中葉にあたるため、駅家に関する建物ではないかと考えられ、全国的に注目されました。それ以外にも、河川を利用して物資を集めるための倉庫群という説もあります。

○ 石城の国が作られた時、現在の中通りと会津地域を合わせて石背国(いわせのくに)も作られました。

○ 東山道と海道は、阿武隈川沿いにあった玉前関(たまさきのせき / 岩沼市の原遺跡)の手前で合流したと考えられます。現在のJR東北本線と常磐線、国道4号線と6号線のルートとほぼ同じであることがわかります。



◎福島県浜通り地方の奈良時代の駅路(推定)

国の境界は、ほぼ現在の県の境界を利用しています。

- 奥付 -

ひろの未来館展示解説1「桜田Ⅳ遺跡」

発行日 2023年10月1日

発行 広野町教育委員会 〒979-0402 福島県広野町大字下北迫字苗代替 35 TEL 0240-27-4166

編集 ひろの未来館 〒979-0403 福島県広野町大字下浅見川字築地 73 番地 1 TEL 0240-27-2277